

淡海ユニバーサルデザイン 点検プログラム

～ 施設のやさしさ度チェック ～

平成14年 3月

滋 賀 県

1. 淡海ユニバーサルデザイン点検プログラムとは

1. 1 淡海ユニバーサルデザイン点検プログラムが求められる背景

滋賀県では、全国で4番目に「住みよい福祉のまちづくり条例」(平成7年10月)を施行し、これまで高齢者、障害者、妊産婦、病弱者など、移動に制約を有する人々の快適で円滑な移動を図るために、ハードの整備として、エレベーターやエスカレーター、スロープ、車いす対応トイレ等のバリアフリー施設の整備を進めてきました。

しかし、技術的指針に沿った整備だけでは、利用者のニーズを反映し、一連の利用行動が円滑に行える快適な環境を提供するレベルに達していない施設も見られます。また、条例施行以前の施設のバリアフリー化は、進みにくいのも現状です。

このような背景の中、行政と事業者、利用者が連携し、「どのような困難を持っている人が、何に対して困っているのか?」、「施設にはどのような課題があり、何を改善すればよいのか?」を明確にし、今後はより一層誰もが使いやすい施設に改善・維持していくことが求められています。

委員会での意見

ユニバーサルデザインに向けたアイデアや利用者の意見は条例に書かれていない。点検プログラムの実行を通して、そういったことをもと増やしていくことが必要。

委員会での意見

自主的な取り組みがあっても、ユニバーサルデザインは進む。条例は行政が示す最低基準であって、この点検プログラムでは、そういった基準をもとに行うのではなく、自らが目標を作って努力し続けることが大事。

1. 2 ユニバーサルデザインの必要性

滋賀県では、ユニバーサルデザインを以下のように定義しています。

ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、障害の有無などにかかわらず、すべての人が利用可能なように、常により良いものに改良していこうという考え方です。

【参考】

ユニバーサル (universal) : 普遍的な、万人の、広く行われる、全世界の
デザイン (design) : 計画、設計、図案・デザイン

ユニバーサルデザインでは可能な限り多くの人が使えよう改良を積み重ねていくことが重要であり、言い換えれば、このような改良を永続的に進めていく“プロセス”や“姿勢”が必要となります。

既存の施設においても、より一層誰もが使いやすいようにしていくためには、このようなユニバーサルデザインの考え方が必要といえます。

委員会での意見

ユニバーサルデザインに終わりはないので、継続的に取り組みを行い、様々な問題を解決していくことが大事。

1. 3 淡海ユニバーサルデザイン点検プログラムの趣旨

淡海ユニバーサルデザイン点検プログラム（以下、点検プログラム）は、施設の管理者である事業者が、自らの施設を自己点検することで、ユニバーサルデザインとは何かを理解してもらうためのきっかけをつくるものです。そして、事業者自らが行う施設の改善・維持活動を通じて、ユニバーサルデザインの取り組みの輪を、社会全体に広げようとするものです。

- 点検プログラムは、バリアフリーや条例を知らない人でも自己点検することで、ユニバーサルデザインとは何か、使いやすい施設とは何かを理解してもらい、施設の改善・維持に取り組むきっかけをつくるものです。
- 点検プログラムでは、より使いやすい施設への改善・維持を継続的に取り組むことを重要視しています。
- 改善・維持活動に関わる情報は、共有化させ、事業者、利用者双方にとって有益なものとし、ユニバーサルデザインの取り組みの輪を社会全体に広げます。
- 「バリアフリー、ユニバーサルデザイン」の取り組みの輪を広げるためには、利用者もこのプログラムに参加してもらいユニバーサルデザインとは何か、使いやすい施設とは何かを理解してもらいます。
- 点検プログラムは、今後益々進展するであろうデザインの可能性を拘束するものではなく、運用する中で社会の反応を見ながら、見直し、改訂を積み重ねていくものとして位置付けます。

委員会での意見

点検プログラムで重要なのは事業者の意識啓発。そのため、誰もが参加しやすくすることが大事。入口はやさしいが、取り組むほどに内容が深くなっていく仕組みが必要。

委員会での意見

点検プログラムで掲げているのは、ユニバーサルデザインのスタートラインで、これからも事業者のアイデアを積み重ね、改訂を行っていかなくてはならない。

委員会での意見

ユニバーサルデザインを普及させるためには、強制するのではなく、プラス面を大事に育てるほうが良い方向に向かうと思う。

1. 4 対象とする施設

対象とする施設は、公共施設および不特定多数の利用が考えられる既存施設です。

事業者自らが、利用者の立場に立って、よりよい施設へと改善・維持していくことが大切です。

したがって、対象とする施設も、公共施設や不特定多数の利用者が考えられる既存施設を考えています。ただし、ユニバーサルデザインは、すべての人のためのデザインを目指すことですので、特定の人が利用する施設であっても点検プログラムを応用した改善・維持を行っていくことが望まれます。

1. 5 事業者と利用者にとっての意義

1. 5. 1 事業者にとっての意義

○ユニバーサルデザインへの意識啓発

○問題点の明確化と具体的な課題の把握

○サービス、イメージの向上、マーケットの拡大

高齢化や情報化が急速に進む中で、誰もが暮らしやすく豊かな社会の実現に向けて、ユニバーサルデザインの考え方が高まっています。しかし、施設を提供する側の事業者は、ユニバーサルデザインの考え方にどのように対応したらよいのかがわかりにくいのではないのでしょうか。そのため、利用する側と連携しながら、問題点を明確化し、施設の課題や改善方法を具体的に把握することが必要となってきます。

したがってこの点検プログラムは、事業者が利用者のニーズに応じて、利用者の利便性を向上していくための優先的な対応策を明確にすることを目的とします。さらに、各施設の現状や課題を利用者と共有することで、社会全体のユニバーサルデザインが進展していくことを目指します。

また、事業者にとってユニバーサルデザイン化を進めていくことは、施設のサービス向上やイメージの向上、マーケットの拡大にもつながっていくと考えます。

1. 5. 2 利用者にとっての意義

○ユニバーサルデザインへの意識啓発

○施設の利用機会の向上

ユニバーサルデザインを進めていくためには、施設を利用するすべての人が「何が不足しているのか」、「どういう部分が不備なのか」といった視点を持つことが大切です。また、その意見を事業者や行政に還元していくことが必要となっていきます。

したがって、この点検プログラムでは、すべての人がより多くの施設を利用しやすくするとともに、プログラムにも参加しやすい社会環境づくりを目指します。

委員会での意見

事業者にとって、点検プログラムを行うことは顧客満足と利益につながる。しかし、ゆくゆくは利用者だけを対象とするのではなく従業員が働きやすい職場環境の向上にも取り組んでもらいたい。

委員会での意見

これがユニバーサルデザインであるといったモデル施設（体験施設）を展開し、市民、事業者にわかりやすく提案できたらよいと思う。

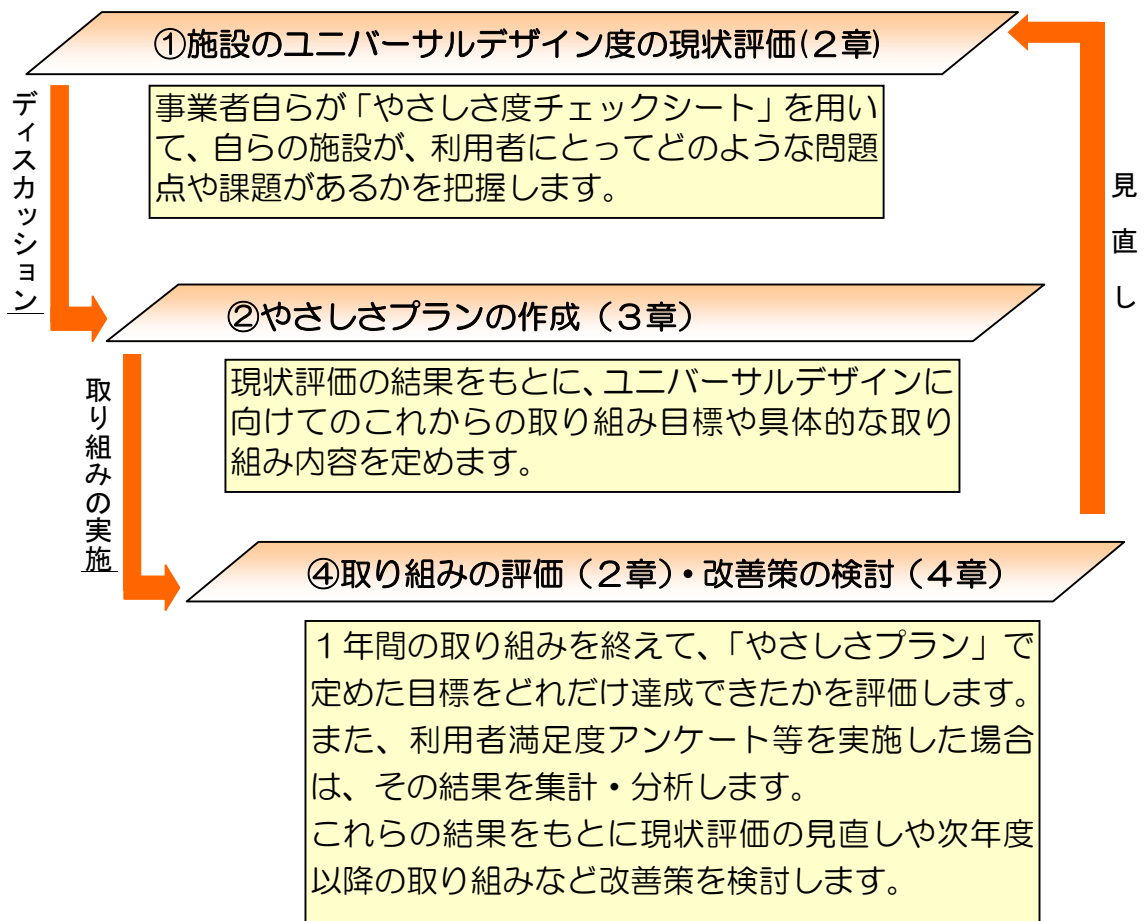
1. 6 淡海ユニバーサルデザイン点検プログラムの構成と概要

点検プログラムは、施設の点検→現状評価→ディスカッション→計画書（やさしさプラン）づくり→計画に沿った取り組み→取り組みの評価→改善策の検討 といった流れで継続的に実施していきます。

点検プログラムの実施は、まず事業者が施設の現状を点検することから始まり、続いてそこで把握された問題点について現状を評価し、施設の改善に向けた計画書をつくります。点検プログラムの中で、この計画書を「やさしさプラン」として位置付けています。そして、「やさしさプラン」に沿った取り組みを行い、最後に1年間を通しての取り組み状況の把握、次年度に向けての改善策の検討を行います。

この一連の流れを継続して行うことで、ユニバーサルデザインで重要な改善を永続的に進めていく“プロセス”や“姿勢”を目指すことができます。

■淡海ユニバーサルデザイン点検プログラム 実施の流れ（1サイクル約1年間）



1. 7 淡海ユニバーサルデザイン点検プログラムの普及

ユニバーサルデザインの取り組みの輪を社会全体に広げていくためには、事業者だけが取り組むのではなく、行政や利用者である市民等とも連携していくことが望まれます。

ユニバーサルデザインの取り組みの輪を社会全体に広げていくためには、事業者、行政、市民のパートナーシップとそれぞれの立場で取り組みを進めていくことが大切です。施設を管理する事業者の意識向上と使用する側である市民への普及、公共施設への率先した取り組みが社会全体への普及へとつながります。

委員会での意見

市民・行政が、事業者を応援していく体制が必要。これから、それぞれの役割や取り組めることについて話し合っていかななくてはならない。

委員会での意見

市民の関わりかたとして、例えば、民間団体組織をつくり、行政が協力していくといった方法も考えられる。パートナーシップのもとに組みを行うことが、ユニバーサルデザインの社会的な普及につながる。